



好調な年度始め： ボッシュの全事業セクターと営業地域で売上高が増加 モビリティの新しい概念、テクノロジーへの新たな認識

2017年5月4日
PI 9564 RB ML/KB

- ▶ 2017年第1四半期の売上高の伸び率は12%
- ▶ 2017年の売上高成長目標は3~5%
- ▶ 2016年の売上高: 731億ユーロ
- ▶ 2016年の支払金利前税引前利益(EBIT): 43億ユーロ
- ▶ 研究開発費: 70億ユーロ
- ▶ ボッシュのCEO、デナー:「ボッシュは未来の世界を形にしていきます」

シュトゥットガルト/レニンゲン(ドイツ) – ボッシュ・グループは、新しい事業年度を迎えるにあたり、幸先の良いスタートを切りました。グローバル規模で革新的なテクノロジーとサービスを提供するボッシュの第1四半期の売上高は約12%、為替調整後では11%の伸び率となりました。2017年の第1四半期にあたる最初の3カ月、全事業セクター、営業地域において業績が大きく上向いています。2017年も、依然として経済状況は低調で世界各地の政情不安も続いています。ボッシュは売上高成長目標を3~5%としました。将来に備えて大きな先行投資が行われましたが、それは業績が上がる見通しがついているためです。この結果を受け、ボッシュ取締役会会長のフォルクマル・デナーは、レニンゲンにある研究開発センターでの年次報告記者会見で「事業の順調な成長により、将来への投資が可能になりました」と述べています。「既存事業をさらに推し進めつつ、新しい事業分野を開発し、技術的リーダーカンパニーであり続けることが弊社の変革における戦略です」。この変革の焦点となるのは、モビリティス、そしてモノのインターネット化(IoT)における変化です。「イノベーションリーダーとして、ボッシュは変革を形にし、その変革を主導しています」とデナーは付け加えました。

2016年: 過去最大規模の先行投資

2016年、ボッシュ・グループの売上高は731億ユーロに達しました。これは、3.6%の成長率、為替調整後では5.5%の成長率に相当します。昨年の方が為替変動によるマイナスの影響はおよそ13億ユーロとなりました。支払金利前税引前の営業利益(EBIT)は43億ユーロ、売上高利益率は5.8%でした。2016年の業績には、会社の将来をより盤石なものにするための多額の先行投資が少なからず影響しています。昨年、ボッ

シュは、研究開発費を 10%増に迫る 70 億ユーロに引き上げました。これについて、財務担当取締役とポツシュ取締役会副会長を務めるシュテファン・アーセンケルシュバウマーは次のように説明しています。「ポツシュは、変革のプロセスだけでなく、長期に渡って高い収益力を維持するためにも、大規模な先行投資を行う必要がありました」。その結果、2016 年の支払金利前税引前利益は、マイナス要因の影響を大きく受け、33 億ユーロに終わっています。

新しいモビリティの概念：ゼロエミッション、ゼロストレス、ゼロアクシデント

モビリティを取り巻く環境は大きな変革を目前にしています。「ポツシュは、まったく新しい可能性を秘めた、エミッション、ストレス、アクシデントのないモビリティを構築します。これはもはや、より優れた自動車の製造というようなレベルではありません。モビリティそのものを新しく作り変える必要があります」とデナーは語っています。さらに、2050 年までには、都市部に世界人口の 7 割が居住すると予想されており、都市部の大気環境の改善も、産業界、政界、そして社会全体で取り組むべき課題であると述べています。ディーゼル車の運転制限区域について現在交わされている議論にも言及し、大気環境の改善については、目標と政策の両面で技術的中立性が保たれるべきであると強調しました。「ポツシュのエンジニアが持つ創造力の対象が、政策によって特定の技術に制限されることがあってはなりません」と述べています。デナーは、ポツシュの CEO として、内燃機関に改良を加えることでまだまだ大きな可能性を引き出せると確信しています。一方で、2017 年秋から導入される RDE (real driving emissions: 実走行エミッション) 測定法が、自動車から排出される NOx (窒素酸化物) のいっそうの削減につながることを期待されています。ポツシュでは現在、およそ 300 件にも上る RDE 関連の開発プロジェクトが進行中です。ポツシュは、ガソリンエンジン車でも長年にわたってパーティキュレートフィルターの普及に大きく貢献してきましたが、輸送機関のネットワーク化はそれ以上に大気環境の改善を促進するでしょう。ポツシュはまた、シュトゥットガルト大都市圏向けにマルチモード交通向の支援システムを開発しました。加えて 2018 年からは、同じくポツシュが開発したコミュニティ ベース パーキングのサービスが量産車に搭載される見込みです。

モビリティの電動化：電気と燃料の組み合わせ

ポツシュは、電気駆動装置の促進にも力を入れており、e モビリティを扱う新しい事業部を設け、組織全体のあらゆる活動の成果をこの分野に活かす仕組みを整える予定です。内燃機関の改良に関する数十億ユーロ規模の投資に加え、毎年、e モビリティ関連の技術開発のために約 4 億ユーロの投資を行っています。そのほとんどはバッテリーの研究開発に充てられ、現在だけでなく将来のバッテリーセル技術の研究にも力を入れています。これにより、e モビリティ関連だけですでに 30 件を超える受注を獲得し、2016 年は、今や世界最大の e モビリティ市場となった中国だけでも、さらに 11 件受注しました。2018 年の初めからは、88,000 人の従業員を抱える新しいパワートレインソリューション事業部がワンストップであらゆるパワートレインに関する技術を提供することになります。「燃料であっても電気であっても駆動タイプに関わらず、ポツシュは今後もパワートレイン開発を主導します。お客様に対して、ポツシュは、常にエンジニアリ

ングとテクノロジーの No.1 パートナーであるべきであり、またそうありたいと考えています」とデナーは述べました。

モビリティの自動化:事業の成功

ポッシュは、自動運転についても同様に、技術の進化と事業の成功を同時に目指すことのできる立場にあります。2016 年には、ドライバー アシスタンス システムの売上高が初めて 10 億ユーロを上回っただけでなく、受注額が 35 億ユーロに達しました。2017 年は全体として、30%の成長率が見込まれているドライバー アシスタンス システム市場でこれを超える急速な成長を目指します。ポッシュでは、現在、昨年から 500 人増の、約 3,000 人のエンジニアが自動運転関連の開発案件取り組んでいます。ダイムラーと共同で、都市部における完全な自動運転やドライバーレス車両の実現に取り組んでおり、2020 年代初頭に完全な自動運転を実用化することが目標です。そのため鍵となる要素のひとつがポッシュの AI オンボードコンピューターで、組み込まれた人工知能が自動運転車両のいわば頭脳として機能します。さらに、2020 年より前に、レーダー信号を利用した極めて精度の高いデジタルマップも制作する予定です。自動運転の実用化には、このようなマップも重要な要件となります。ポッシュは、ボーダフォン、テレコム、ファーウェイ、ノキア、その他の企業との共同開発を通し、道路交通の自動化・ネットワーク化に取り組んでいます。その一環として、車両間を結ぶ信頼性の高い無線通信技術を検証する試験などが進められています。

コネクテッドモビリティ:コネクテッドカーはアシスタントのような存在に

今年 Bosch Automotive Cloud Suite の運用開始が予定されています。これは、逆走警報、予知診断、コネクテッドパーキング、パーソナルアシスタントといったモビリティサービスを開発するための新たなプラットフォームです。「Bosch Automotive Cloud Suite は、ネットワーク化された車両関連のサービスにとって重要な技術となるもので、これを利用してドライバー、車両、自動車メーカー、さらにはその他のモビリティサービスのプロバイダーをネットワークで結ぶことができます」とデナーは述べています。Bosch Automotive Cloud Suite は、ポッシュの自動車分野と IT 分野の専門技術・知識を融合させるものでもあります。PwC では、コネクテッドモビリティのグローバル市場は 2022 年まで毎年約 25%のペースで成長を続けるものと見ており、ガートナー社は、2020 年までに世界中の路上を 2 億 5,000 万台のネットワーク化された車両が走るようになるかと予測しています。

新しい技術の創造:インテリジェントで感情に訴える技術へ

ポッシュでは、IoT のグローバル市場の規模が年間で 35%拡大し、2020 年までには 2,500 億ドルに達すると予測しています。ポッシュはすでに 2016 年の時点でウェブ接続が可能な製品を 2,700 万台売り上げており、さらに 2020 年までにはすべての新しい電子製品にネットワーク機能が組み込まれる予定です。将来的には、これらの製品に関連するサービスも提供されるようになる見込みで、その鍵となるのが人工知能 (AI) です。10 年後には、ポッシュが開発、製造するほぼすべての製品に人工知能が組み込まれるようになるでしょう。そのために、今後 5 年間で自社の人工知能開発センターに 3 億ユーロの投資を行います。ポッシュは、ドイツのバーデン・ヴュルテンベルク

州で「Cyber Valley(サイバーバレー)」の設立も支援しています。政治家と実業家、科学者で構成されたこの団体は、AI 研究を後押しすることを目的としています。さらにアムステルダム大学と協力し、ディープラーニングの研究所である Delta Lab(デルタラボ)の運営も行っています。デナーは、「人工知能には、IoT をパーソナルで感情に訴える体験に変える力があります。デジタルアシスタントは今後ますます賢くなり、ユーザーを日々の雑務から解放する存在となるでしょう」。トラクティカ社では、デジタルアシスタントの利用者は今後 10 年で 3 倍以上増え、15 億を超えると予測しています。

2016 年地域別業績

2016 年の欧州でのポッシュ・グループの売上高は 386 億ユーロでした。これは、前年比で 3.4%、為替調整後では 4.8%の伸び率となり、ポンドの下落を考慮すると、極めて高い数値であると言えます。非常に堅調であった前年に比べ、北米の売上高は 2.2%減の 123 億ユーロに終わり、為替調整後は 1.8%減でした。南米の売上高はここ数年減少傾向にありましたが、為替調整後で 2.4%増となり、名目ベースでは 5.0%減の 14 億ユーロとなりました。アジア太平洋地域では 8.3%増と大きく健闘し、208 億ユーロを売り上げました(為替調整後で 12%)。今では、ポッシュ全体の売上高のおよそ 30%を占めるまでになっています。

2016 年事業セクター別業績

2016 年は、ポッシュの 4 つの事業セクターのうち、モビリティソリューションズが最も堅調でした。売上高は 5.5%(為替調整後は 6.9%)増加して 439 億ユーロに上り、利益率も 6.0%となっています。一方で、産業テクノロジーセクター、中でもドライブ & コントロール テクノロジー事業部は引き続き厳しい市場環境の影響を受け、売上高は 5.2%(為替調整後は 4.2%)減の 63 億ユーロでした。規模の大きなギヤボックス部門の売上高による事業基盤構成の変化を考慮すると、売上高の下落は 1.5%に過ぎません。また非常に心強いことに、同事業セクターの収益力が回復してきています。消費財セクターの売上高では、為替変動によるマイナスの影響が特に顕著でした。この影響を考慮して調整した後の売上高は 5.7%増、名目売上高は 2.6%増の 176 億ユーロ、利益率は 1%上昇して 8.2%となっています。エネルギー・建築関連テクノロジーセクターは 52 億ユーロの売り上げを達成しました。ここでも、為替相場がマイナスに影響し、その影響を考慮した調整後の売上高は 4.5%増、名目売上高は 1.7%、利益率は 4.3%となっています。

従業員数:IT およびソフトウェア関連の人材需要が増大

2016 年 12 月 31 日時点でポッシュ・グループの従業員は、全世界合わせて約 39 万人を数えます。昨年はさらに 14,500 人増加しましたが、地域別の構成には大きな変化はありません。大きな増員はドイツ国内の 2,000 人で 134,000 人となり、残りは主にアジアと北米地域でした。依然として、特にソフトウェアと IT 関連の専門知識を有するスペシャリスト、役員的大幅な増員が必要です。ポッシュは現在でも 20,000 人を超えるソフトウェアエンジニアを擁していますが、そのうち IoT の分野に携わっているのは 4,000 人足らずとなっています。

報道関係対応窓口:

René Ziegler 電話: +49 711 811-7639

Melanie Loriz 電話: +49 711 811-12798

Nicole Neuer 電話: +49 711 811-11390

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2016年の従業員数は約39万人(2016年12月31日現在)、2016年の売上高は731億ユーロを計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングカンパニーとして、スマートホーム、スマートシティ、コネクテッドモビリティ、さらにコネクテッドマニュファクチャリングに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたソリューションの提供を戦略的な目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出しています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社440社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売/サービスパートナーを含むグローバルな製造・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界120の拠点で約5万9,000人の従業員が研究開発に携わっています。

ボッシュの起源は、1886年にロバート・ボッシュ(1861~1942年)がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の92%は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

さらに詳しい情報については、www.bosch.com (英語)、www.iot.bosch.com (英語)、www.bosch-press.com (英語)、www.twitter.com/BoschPresse (ドイツ語)を参照してください。